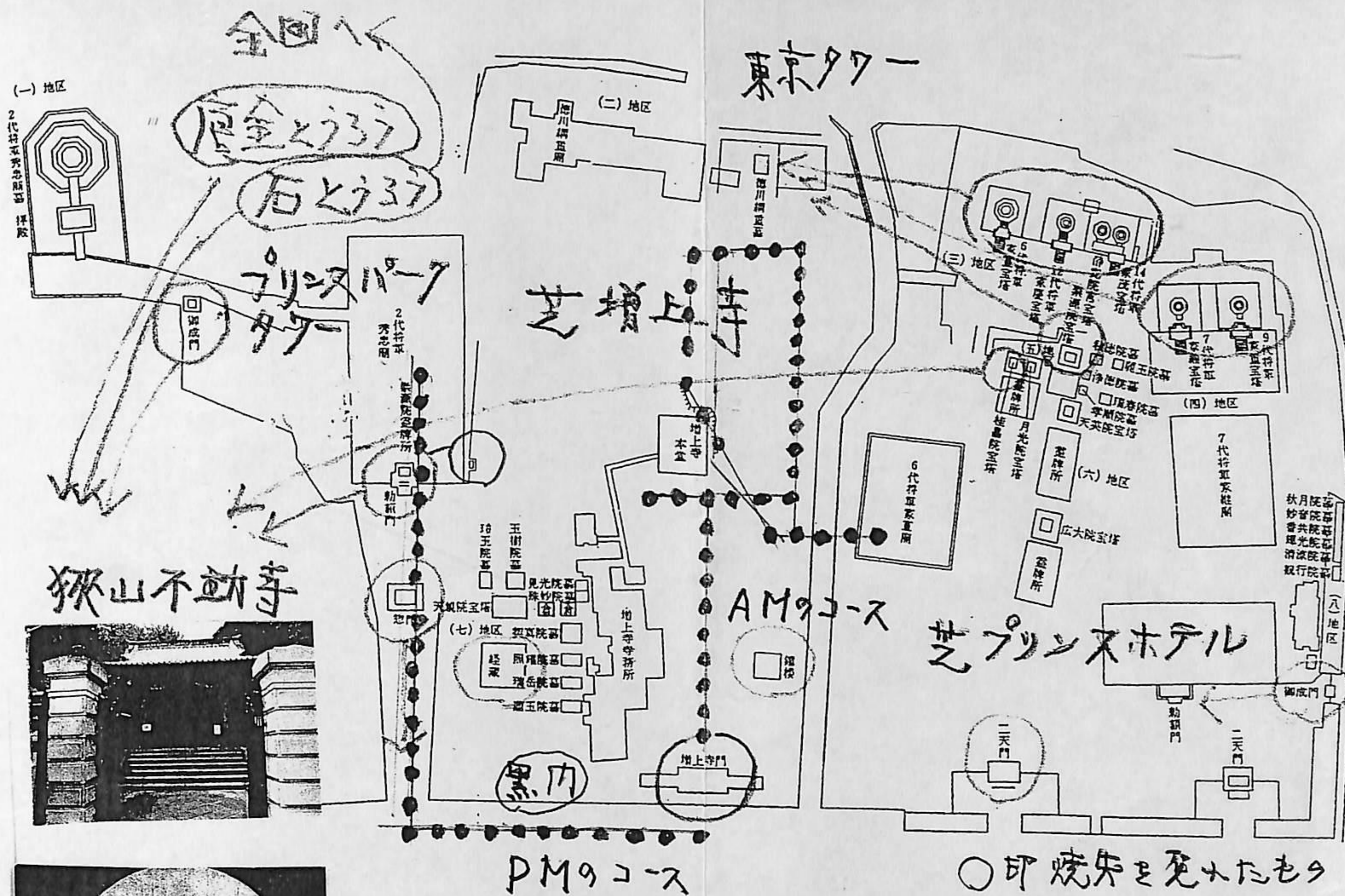
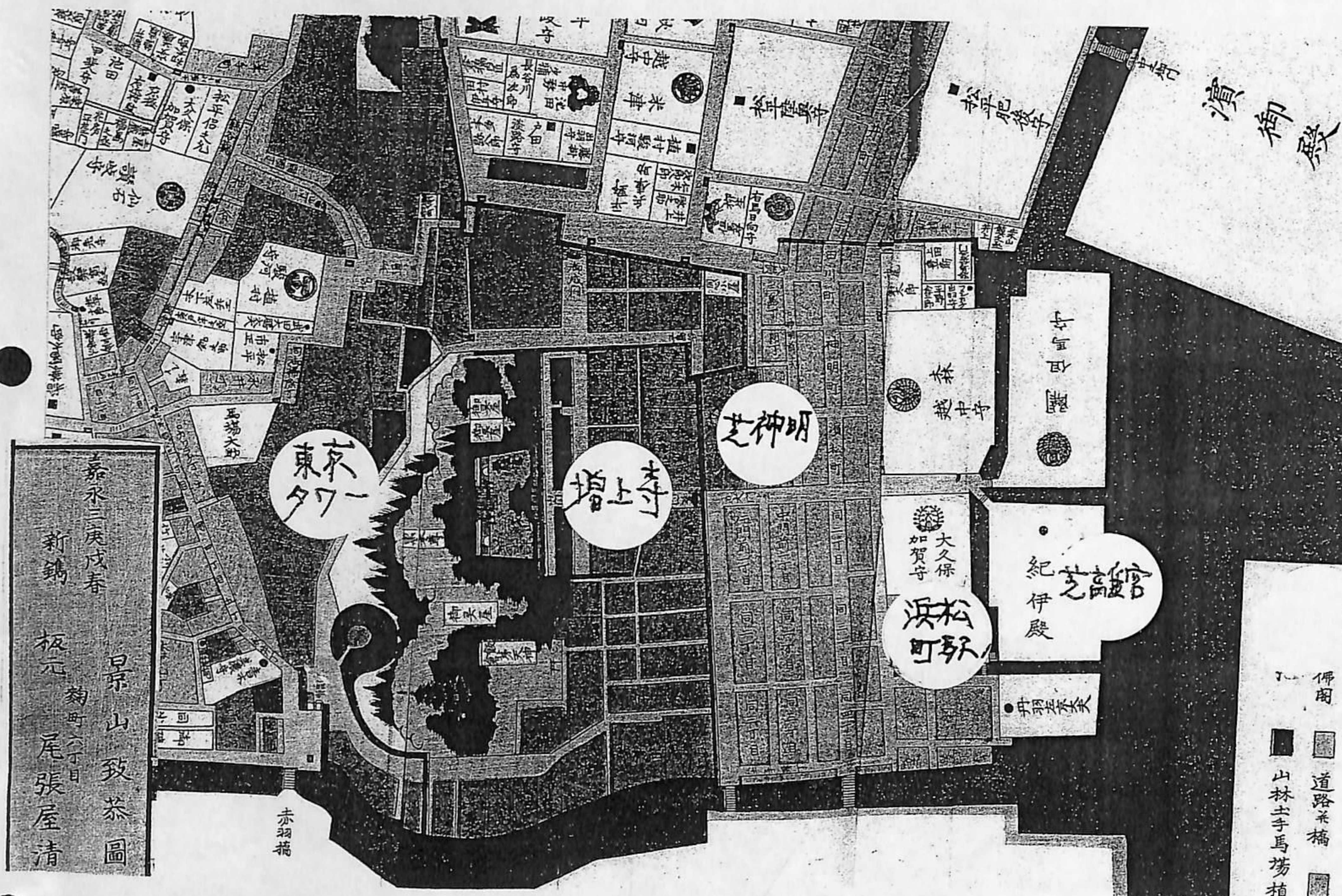
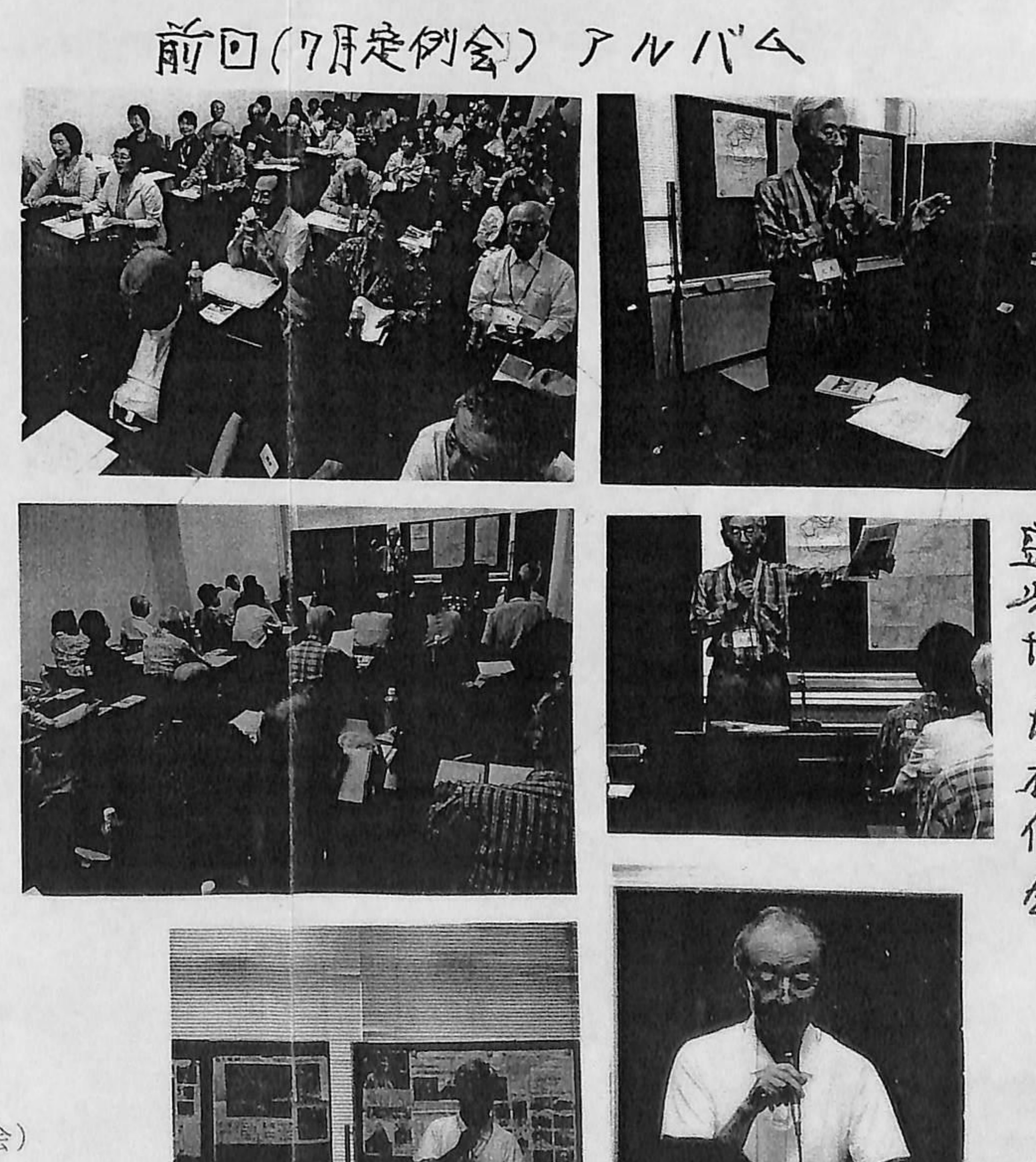


「大河ドラマお江ゆかりの増上寺周辺を歩く」

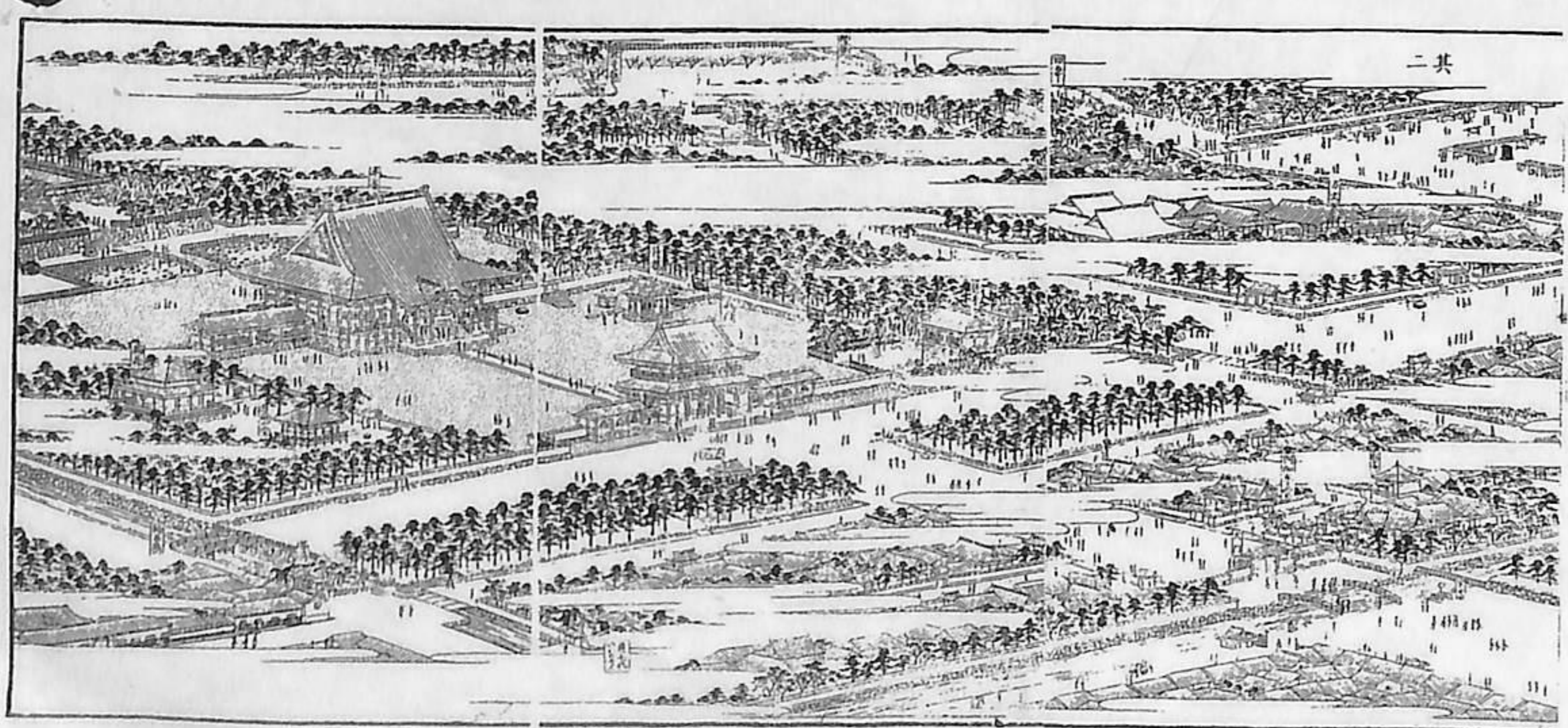
山岸弘明



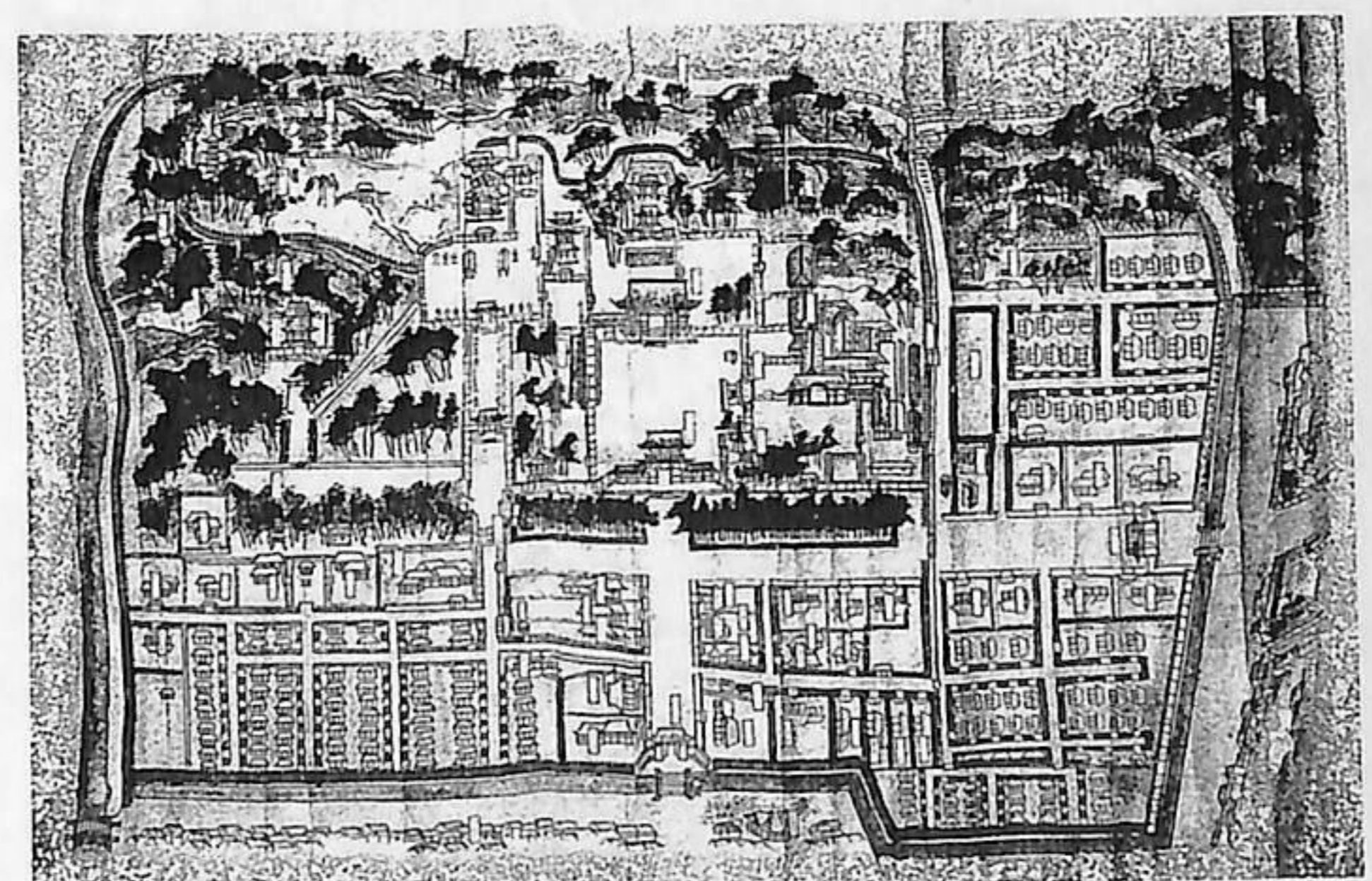
←法然上人



盛況だった研修会



芝増上寺(江戸名所図巻)



江戸中期の境内図

- はじめに (地名のおこり)
- ①芝 = 芝の広がる平地
 - ②浜松町 = 浜松出身の権兵衛が多主を勤めた
 - ③芝浦 = 芝の港
 - ④大門 = 増上寺大門のある町

*主要参考資料 = 戦災等による焼失文化財・建造物編 (文化庁)
 増上寺 徳川將軍墓とその遺品・遺体 (東京大学出版会)
 大本山 増上寺、徳川將軍家旧御霊屋絵葉書 (増上寺)
 浄土宗本山 増上寺 (増上寺分寺)

お江と秀忠が眠る芝増上寺周辺を歩く

1) 徳川将軍家菩提寺として繁栄 — 三縁山広度院増上寺

①浄土宗の大本山で江戸時代徳川将軍家の菩提寺として栄えた名利。はじめ麹町にあったが、徳川家康が江戸入府にあたって菩提寺と定め、慶長3年20万坪の寺領を寄進して現在地に移した。元和元年関東浄土宗十八壇林、本山。江戸時代を通じて特別な保護を受け寺領1万石、子院50余りを擁して寺運も隆盛をきわめた。境内一円は旧国宝の将軍家霊廟建造群が連なったが昭和20年5月の東京大空襲で本堂とともに焼失した。

*現在の本堂は昭和49年建造の鉄筋コンクリート建築
*昭和30年代に敷地の大半を西武グループに譲渡、現在は芝プリンスホテル、ザ・プリンスパークタワー東京ホテルになっている

*増上寺には三門、秀忠総門、黒門、北霊廟御成門、二天門、宝塔、石灯籠などごくわずかが現存
*西武売却前は狭山不動寺に秀忠霊廟勅額門、御成門、お江丁字門、桂昌院宝塔、唐金灯籠、石灯籠などを移築現存、石灯籠は分散譲渡されたので全国各地に点在している
*芝公園も元増上寺境内の一部、明治6年太政官布告にもとづき都内最初の5公園の1つとして開放された。園内に芝東照宮や円山古墳、旧増上寺庭園の一部などがある

②寛永3年に亡くなったお江を埋葬、はじめ次男忠長が芝プリンスホテル駐車場の地に壮麗な霊廟を築くが忠長の死後、家光が秀忠霊廟に霊牌所を作り直した。

*正保4年移築したお江霊廟は現在も鎌倉・建長寺仏殿として現存している

③寛永9年秀忠逝去、台徳院廟に葬られた。以後家宣以下後出6将軍の廟所となった。

*家康と家光は日光、家綱、綱吉、吉宗、家治、家斉、家定は寛永寺、慶喜は上野谷中墓地に眠っている

2) ぼんのうを解脱する巨大三門 — 集合地点

①三解脱門(三門=重要文化財)=大門に次ぐ中門だが一般に正門とする。慶長10年に創建したが19年の台風で倒壊、元和7年秀忠が再建した。増上寺ではもっとも古い建物。

②三解脱=現世の「むさぼり、いかり、おろか」の3つの苦悩から開放されて自由の境地に達すること。

③屋根入母屋造り本瓦葺き、2階建て楼門。5間3戸、高さ21m、間口19m、奥行9m。朱うるし塗装、唐様を中心に和様の高欄などを加えている。楼上是非公開、釈迦如来座像を安置している。

*同読みの山門は本来寺は山にあるものとして山号を名乗ったことという寺の門のこと

④大梵鐘=延宝元年、高さ3m、1.5t。関東では最大級。江戸3大名鐘の1つ。

いまなるは芝か上野か浅草か。江戸七分ほどは聞こえる芝の鐘。木更津までも?

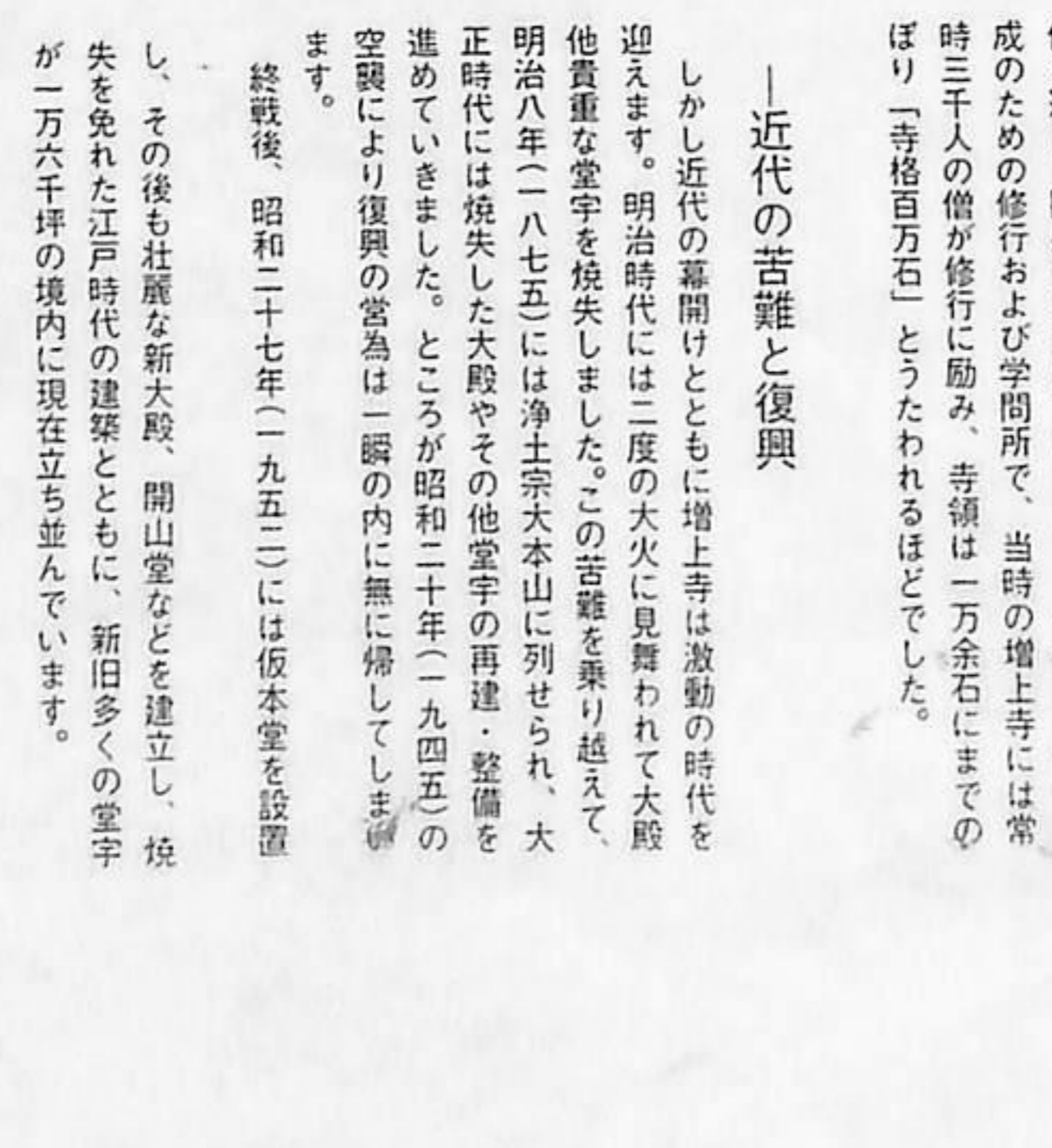
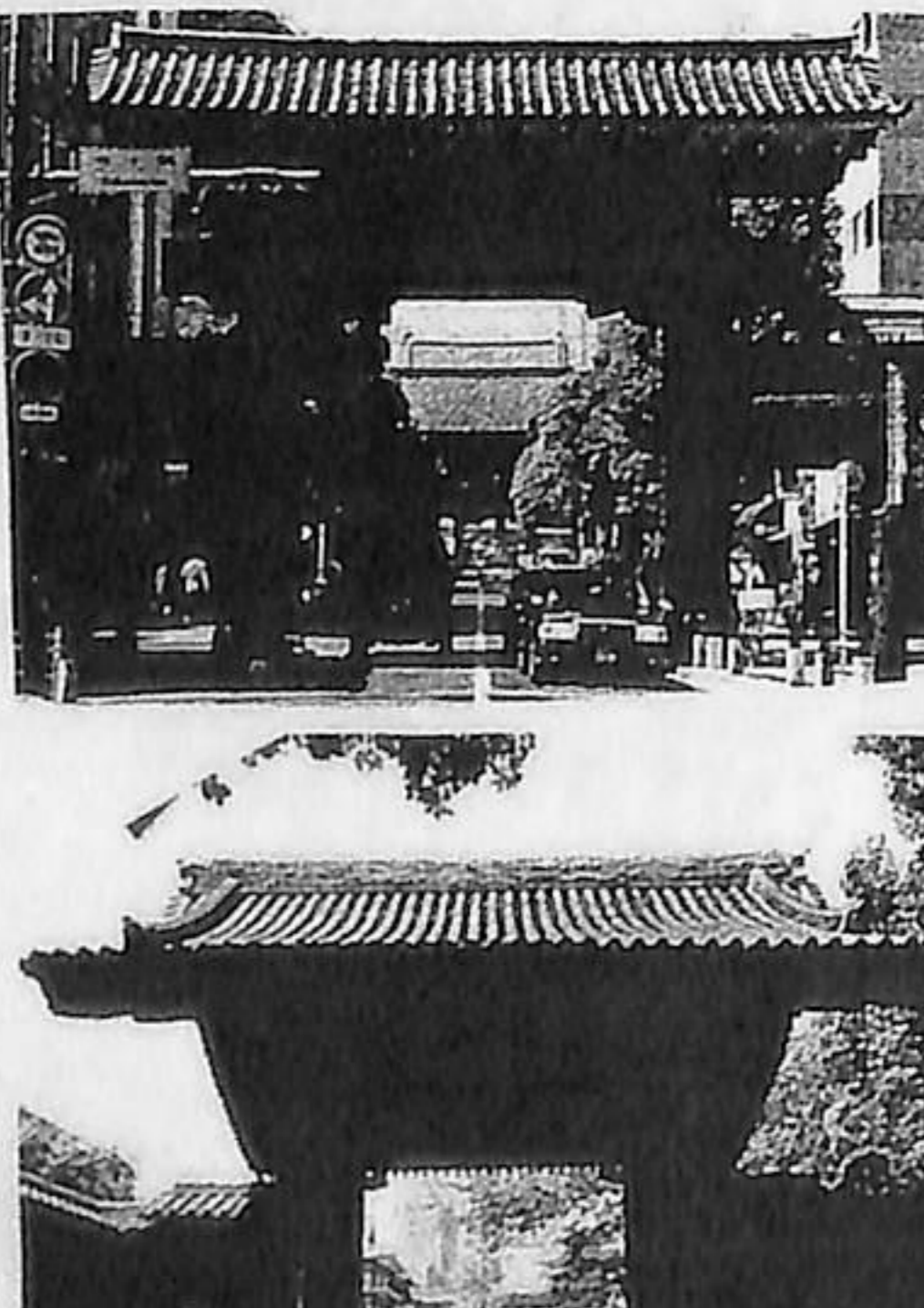
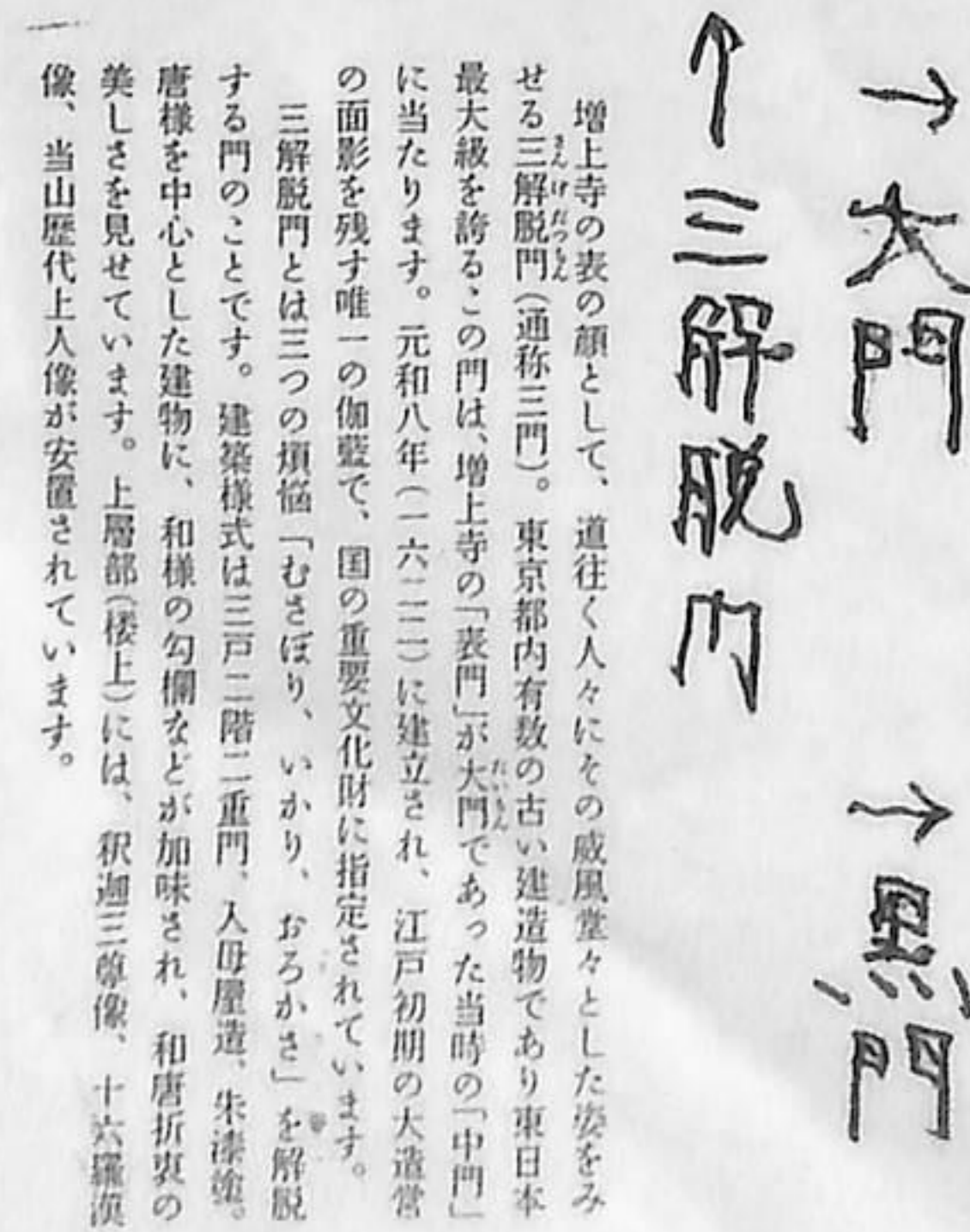
⑤水盤舎=家光の3男で家宣の実父甲府宰相徳川綱重霊廟の現存、移築。



徳川家の菩提寺と寺勢の大隆盛
天正十八年(一五九〇)、徳川家康公が関東八力国に封ぜられ江戸に入国すると、当時の住職、源覚上人と親しく交わり、増上寺を徳川家の菩提寺とし、また、慶長三年(一五九八)には、現在の芝の地に移転。家康公が江戸幕府を開くや、伽藍の大造営が開始され、数年のうちに七代伽藍が完成しました。朝廷からも存



開山から六百年
増上寺は、浄土宗の七大本山のひとつであり、正式には三縁山広度院増上寺と称します。明徳四年(一三九三)、西堂聖一上人によって江戸具現千代田区平河町の地に開山されました。念仏の根本道場として創建された増上寺は、室町時代から戦国時代にかけて、浄土宗の東國の要として発展していきます。



近代の苦難と復興
しかし近代の幕開けとともに増上寺は激動の時代を迎えます。明治時代には二度の大火に見舞われ、本堂、他重要堂宇を焼失しました。この苦難を乗り越えて、明治八年(一八七五)には浄土宗大本山に列せられ、大正時代には焼失した本堂やその他堂宇の再建・整備を進めていきました。ところが昭和二十年(一九四五)の空襲により復興の営為は一瞬の内に無に帰してしましました。
終戦後、昭和二十七年(一九五二)には本堂を復元し、その後も壮麗な新本堂、開山堂などを建立し、焼失を免れ江戸時代の建築とともに、新旧多くの堂宇が一万余坪の境内に現在立ち並んでいます。

3) 本尊阿弥陀如来が厚い信仰を集める — 大殿は自由見学

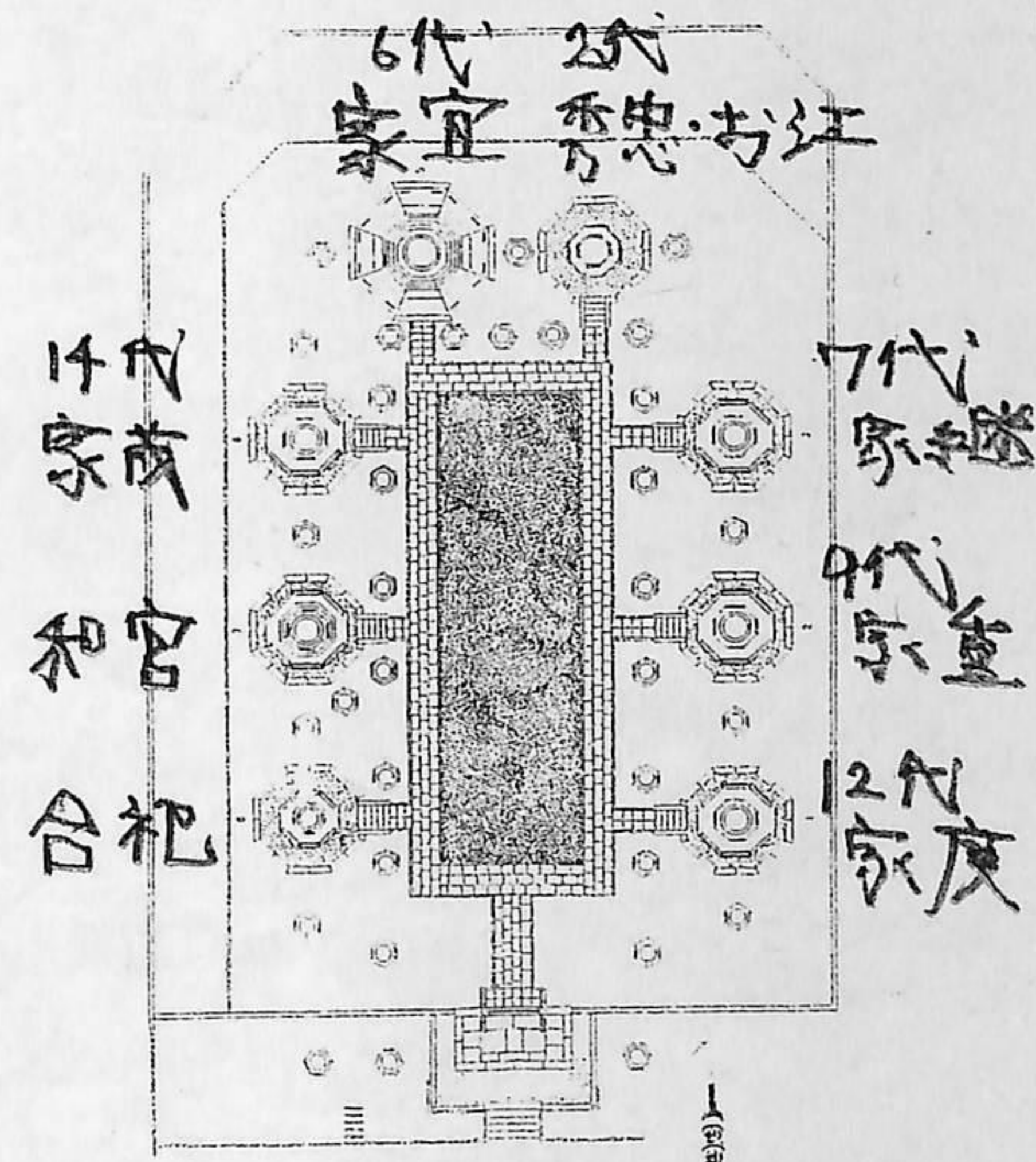
①大殿(だいでん=本堂)=昭和20年に焼失した本堂に代わり、昭和49年鉄筋コンクリート再建。本尊は阿弥陀如来で両脇に善導大師と法然上人像を祀る。自由参拝。
*阿弥陀如来像は室町時代の彫刻、作者は不詳

4) 家康ゆかりの黒本尊 — 安国殿

①黒本尊は家康が深く信仰し、その加護により度重なる災難を除け、戦の勝利を得たという霊験あらたかな阿弥陀如来像で、勝運、厄除けの仏さまとして尊崇されている。
②金箔は香煙で黒ずみ「黒本尊」という。
*像高80cm、恵信僧都の作といわれる。家康の念持仏かどうかは不詳
③普段は秘仏(非公開)=毎年1、5、9月15日に御開帳、一般公開される。
④左側に家康絵、徳川歴代将軍位牌、等身大皇女和宮像、右側に聖徳太子像を飾る。

5) 秀忠とお江、家茂と皇女和宮夫妻が眠る — 将軍家霊廟(500円=各自払い)

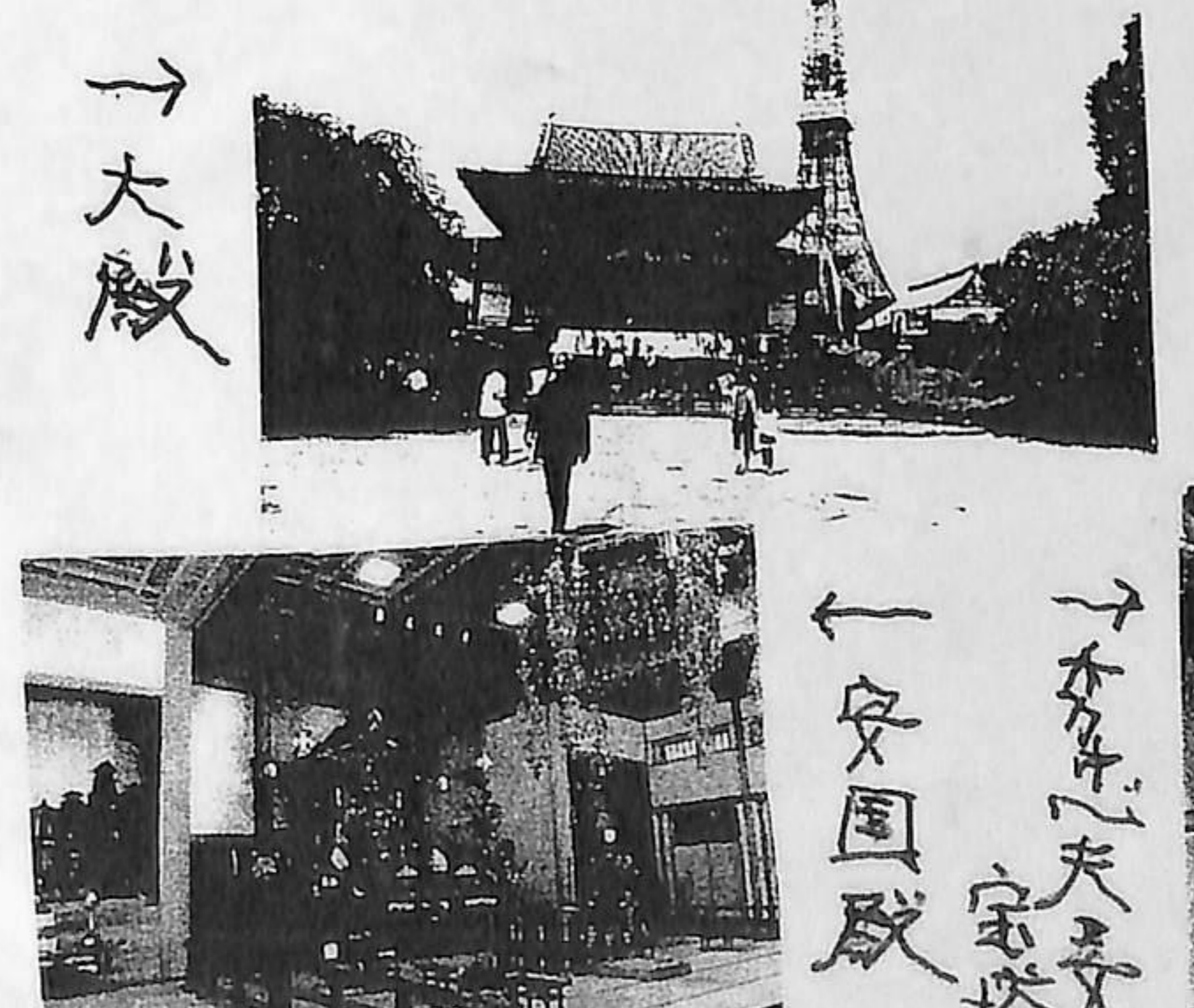
①戦前まで、秀忠、家宣、家継の南北3霊廟に6将軍が葬られていたが昭和20年東京大空襲で焼失。昭和33年被害が少なかった文昭院殿(家宣)霊廟に纏められた。
②鑄抜門(重要文化財)=1枚の銅板で鑄抜いた門。規模と荘厳さを日光東照宮と並び賞されたという。
*家宣の墓(宝塔)の中門、現存移築。左右の扉に5こずつの葵紋、両脇に昇り龍、下り龍を鑄抜く
③普段は非公開、ことしは大河ドラマを記念し11月30日まで有料一般公開
*毎年1月15日、4月2-8日、5月10日、15日、9月15日、10月2日とみなと区民まつりは無料公開(ことしは?)



◆六代 家宣公(文昭院殿)
家宣公の三男綱重を継ぎます。正徳二年(一七〇二)に出生。宝永六年(一七〇九)将軍職を継ぎます。正徳二年(一七〇二)五月に、増上寺の北堂城に造営された文昭院殿ですが、参詣した永井南風は、莊重美艷な外観への驚きと神壇・壁面・天井画・欄間彫刻を配した内部の「秩序の世界」に感嘆し、その著「霊廟」の中で「巨大なる此の別天地の幽邃なる光線と暗然たる色彩と冷静なる空気とに何から心の奥深く、騒々しい他の場所には決して味わわれぬ或る感情を誘い出される」と告白しています。

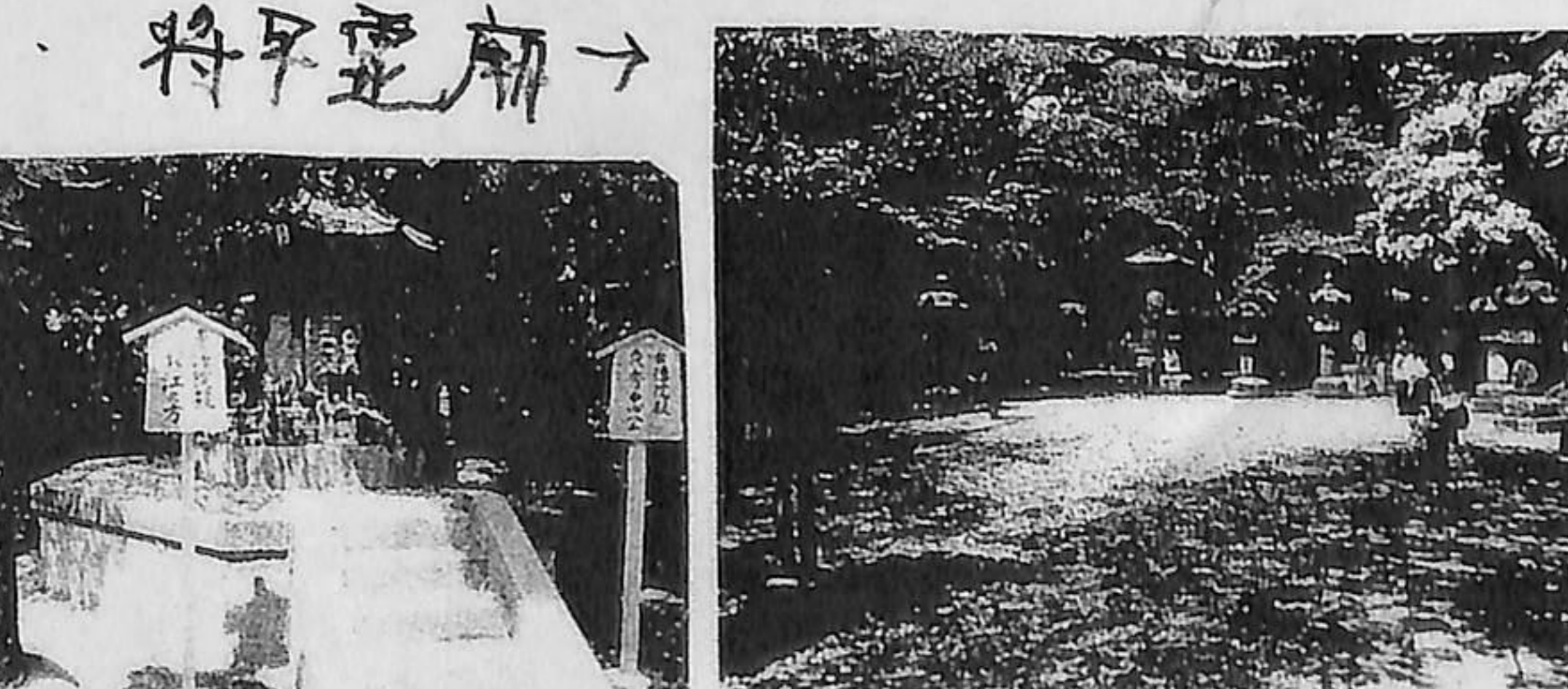
◆七代 家継公(有章院殿)
家宣公の第三子として三徳六年(一七〇九)に出生。父の喪去、兄二人の早世でわずか三歳にして七代将軍職を継ぎます。正徳五年(一七一五)皇女八十歳と婚約するも、元来、病弱で実現を見ぬまま翌徳六年(一七一六)、嗣は文昭院殿に並んで造営されました。

◆十四代 家茂公(昭徳院殿)
紀伊徳川家、高廟の第二子として弘化三年(一八四六)に生まれ、安政五年(一八五八)十四代将軍となりました。しかし、世継問題と日米通商問題を幕府は大きく揺れ、井伊直弼によつて安政の大獄がはじまりましたが、事態収拾のために公武合体策をとじ、和宮親子内親王静寛院を正室に迎えます。幕府は幕府の対立が激化するなかで、家茂公は長州征伐を指導しますが、出征途中の大坂で病のために薨去。慶応二年(一八六六)、享年三十一歳でした。



◆合祀塔
現在の合祀塔には、家宣公の父である徳川綱重をはじめ、家宣公の生母桂昌院、十一代家宣公正室広大院、家宣公側室五月光院ら南北の御堂屋に祀られていた歴代将軍の夫人子女の多数が埋葬されています。なお宝塔は月光院種子の墳墓に祀られた宝塔が使われています。

◆静寛院和宮
十四代家茂公正室、静寛院和宮は兄孝明天皇の御の年、仁孝天皇第八女として弘化三年(一八四六)に出生。有徳川宮と号していましたが、婚後間近になつて公武合体策によつて徳川家に降嫁しました。家茂公没後、落飾して静寛院と号し、波乱万丈変転激しい時代のなか、江戸橋本町に徳川家康、家光夫妻の御廟に力を尽くし、明治十年(一八七三)より一貫して生涯を閉じました。没後遺体は京都へ戻すよう沙汰がありましたが、本人の遺言にしたがひ、家茂公と同じく増上寺に祀られました。宝塔の形は夫婦同様に、家茂公宝塔に対して背向で作られています。



- ④秀忠以外は現存移築、秀忠は木造宝塔のため焼失、お江の石造宝塔に合祀された。
初期將軍墓は青銅、家継以降石造。徳川型宝塔という。
- ⑤お江は御台所のため一回り小型。形式も多少異なる。石垣正面に石段があり、1段台石に高欄、円形返り花座、塔身は六角伏鉢型で正面に棧唐戸を設けている。笠は六角やや急勾配で照りむくりは少ない。
*狭山不動寺に現存移築された綱吉生母お玉の青銅宝塔とも微妙に異なる

6) 5将軍とお江の墓もあつた北霊廟跡 —— 芝プリンスホテル

- ①北霊廟には家宣霊廟と家継霊廟があり、5将軍とお江、皇女和宮ら正室、生母らの宝塔があつた。
- ②昭和20年ほぼ全域を焼失したが家継二天門と御成門が焼け残つて駐車場に現存する。
*現在は芝プリンスホテルとなっている。駐車場から遠望の予定だが、毎年夏にホテルのプール開設にともない交通止めとなるので省略することがある

7) 昼食休憩=集合場所三門、集合時間 時 分

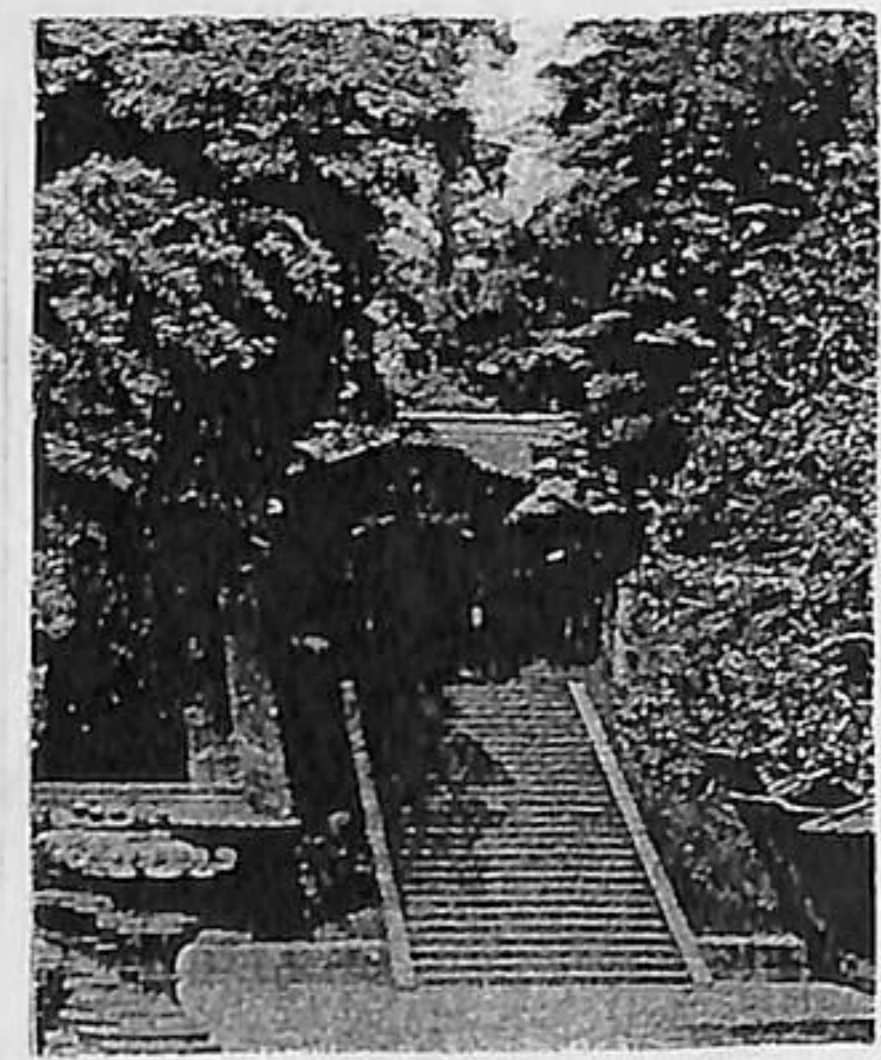
- ①境内で持参のお弁当を楽しむ
- ②持参しなかつた方へのおすすめ食堂
*境内の芝縁=おばんざい定食700円、うどん、そば、日替わり定食、甘味、ソフトクリーム、かき氷
東京タワー内食堂=軽食フードコート、そばさつま、太陽楼バイキング、カレーラボ
大門周辺には食堂、レストラン、そば店など多数

8) 有志で東京タワー3階「お江」展へ(希望者は現地集合)

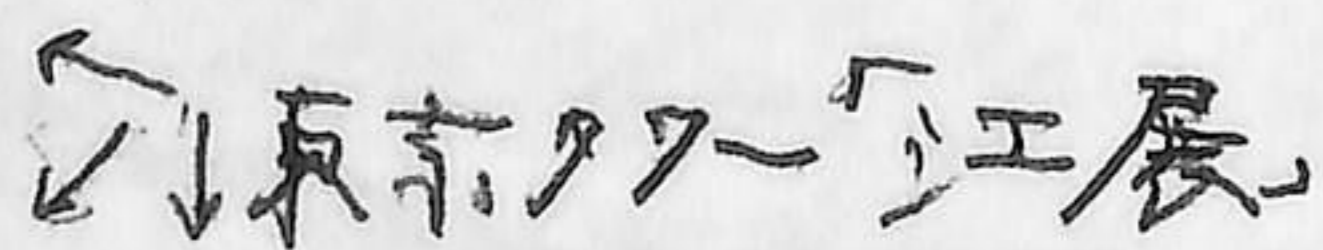
- ①東京タワー企画展「江展」
*大河ドラマパネル展、映像紹介
江戸城大奥お鈴廊下お錠口=お江がはじめた大奥制度、将軍以外男子禁制、大奥女性総触れ輿(セットの複製)、衣装
御台所居間=書院造り構え、床の間、違い棚、大奥出世物語、江戸図屏風



→北霊廟跡
芝プリンスホテル



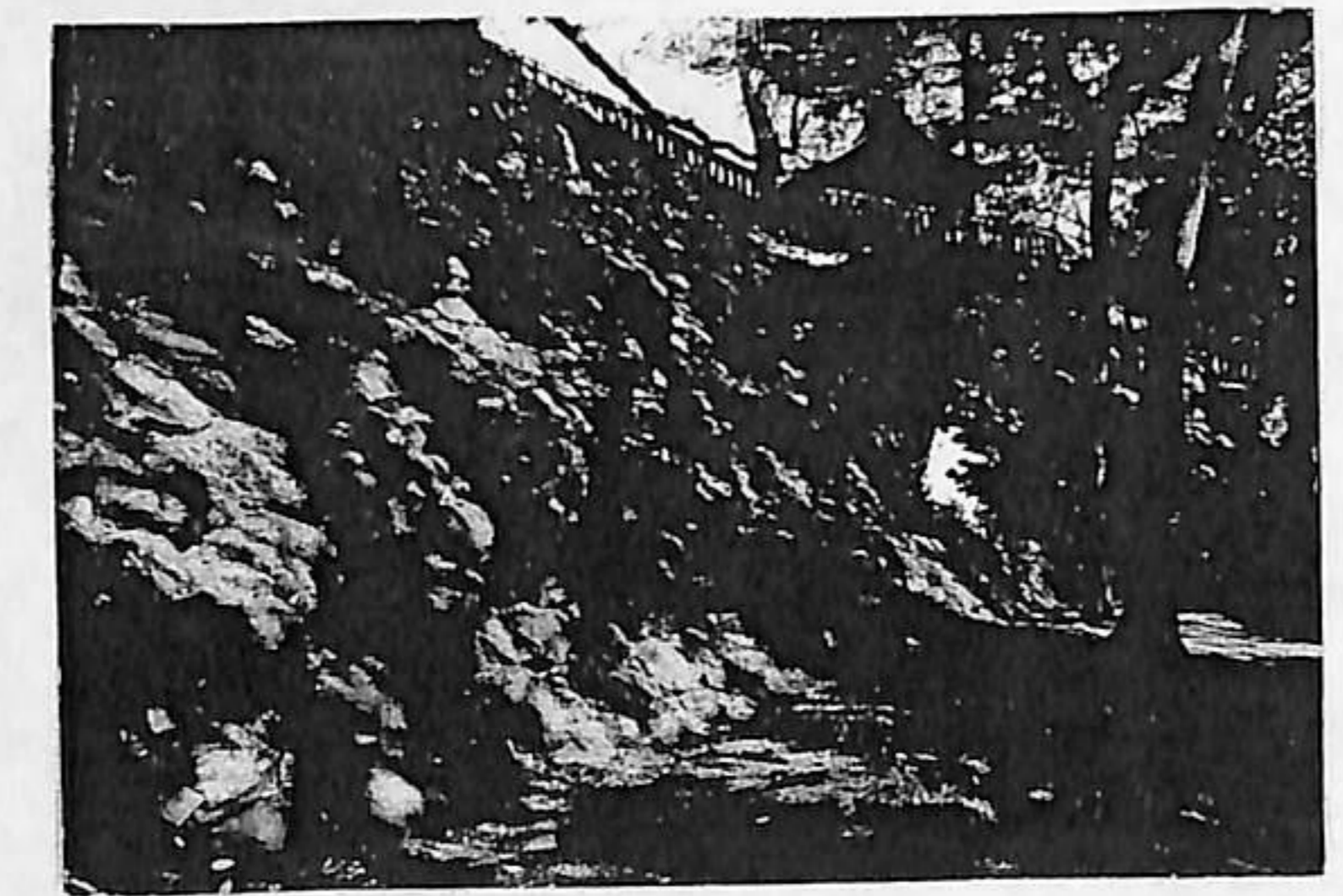
家宣霊廟正面



↓東京タワー「江展」



次回(10月7日)日屏バス満席



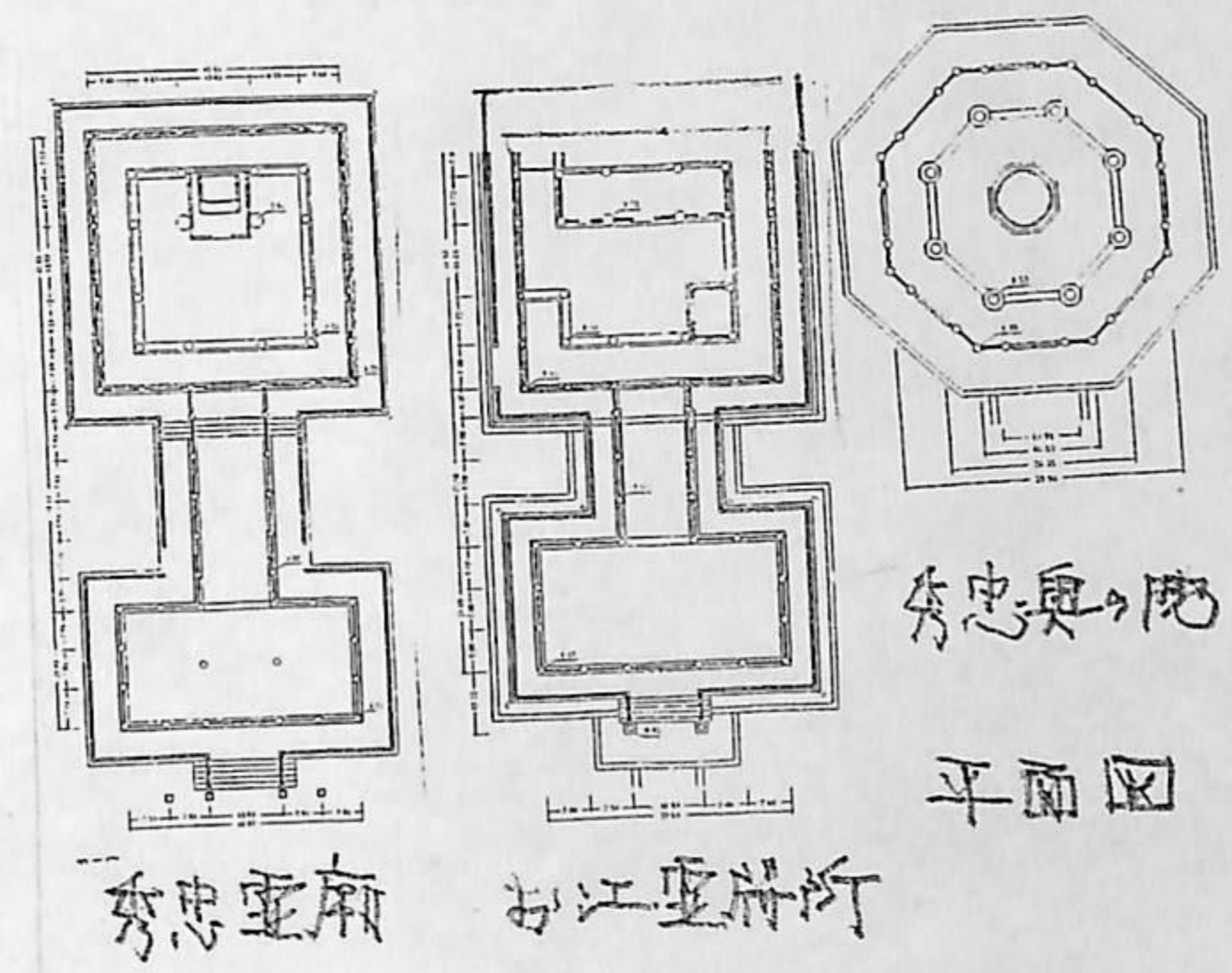
下野名城と日屏バス



写真上から
①唐沢山城
②佐野城
③小山城
ほかに
移築佐野城門(佐野薬師)
小山評定跡を見学します

- 9) 秀忠、お江夫妻廟総門と霊廟、霊牌所跡 —— 台徳院総門周辺
①黒門(旧方丈門=重要文化財)=御成門交差点近くにあった増上寺方丈正門の現存移築。
②台徳院霊廟総門(重要文化財)=秀忠(+お江)霊廟の正門で寛永9年家光建造、昭和20年の空襲で勅額門、御成門、丁字門とも焼失を免れた。
*3間1戸8脚門、屋根は入母屋造り、正面に唐破風をもつ銅板葺き、全体を朱塗りした単純な和様建築になっている
③仁王像(区文化財、後付け)=江戸前期、江戸の仏師制作の仁王像。元は武蔵国北足立郡(川口市)の西福寺所蔵、東京浅草寺をへて戦後当地に安置されたとされる。
*あ形243cm、うん形247cmで力強い。
④総門跡、勅額門跡=高台緑地公園はザ・プリンスパークタワー東京ホテル敷地の屋上。
総門は西武売却の時現在地へ、勅額門は狭山不動寺へ移築された。
⑤秀忠霊跡、奥の院墓所跡、お江霊牌所跡を遠望=壮大な霊廟は参考写真、および参考図を参照されたい。
いまは昔、跡地に当時の面影を忍ぶことはできない。
*霊廟は霊を祀る屋舎=御霊屋、霊牌所は位牌を祀る屋舎をいう。お江の霊牌所と墓(宝塔)ははじめ北霊廟(現芝プリンスホテル)の地で、正保4年墓と分離して夫霊廟に移した

以上



秀忠総門(現存)



→石造宝塔(焼失)



秀忠御成門(狭山)



お江霊牌所跡



秀忠霊廟(焼失)



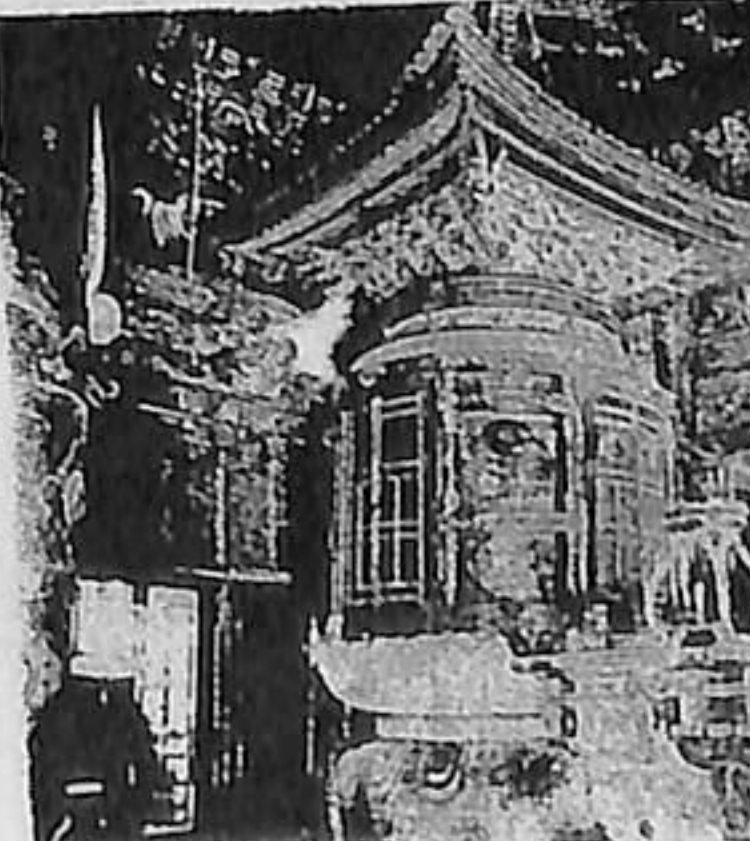
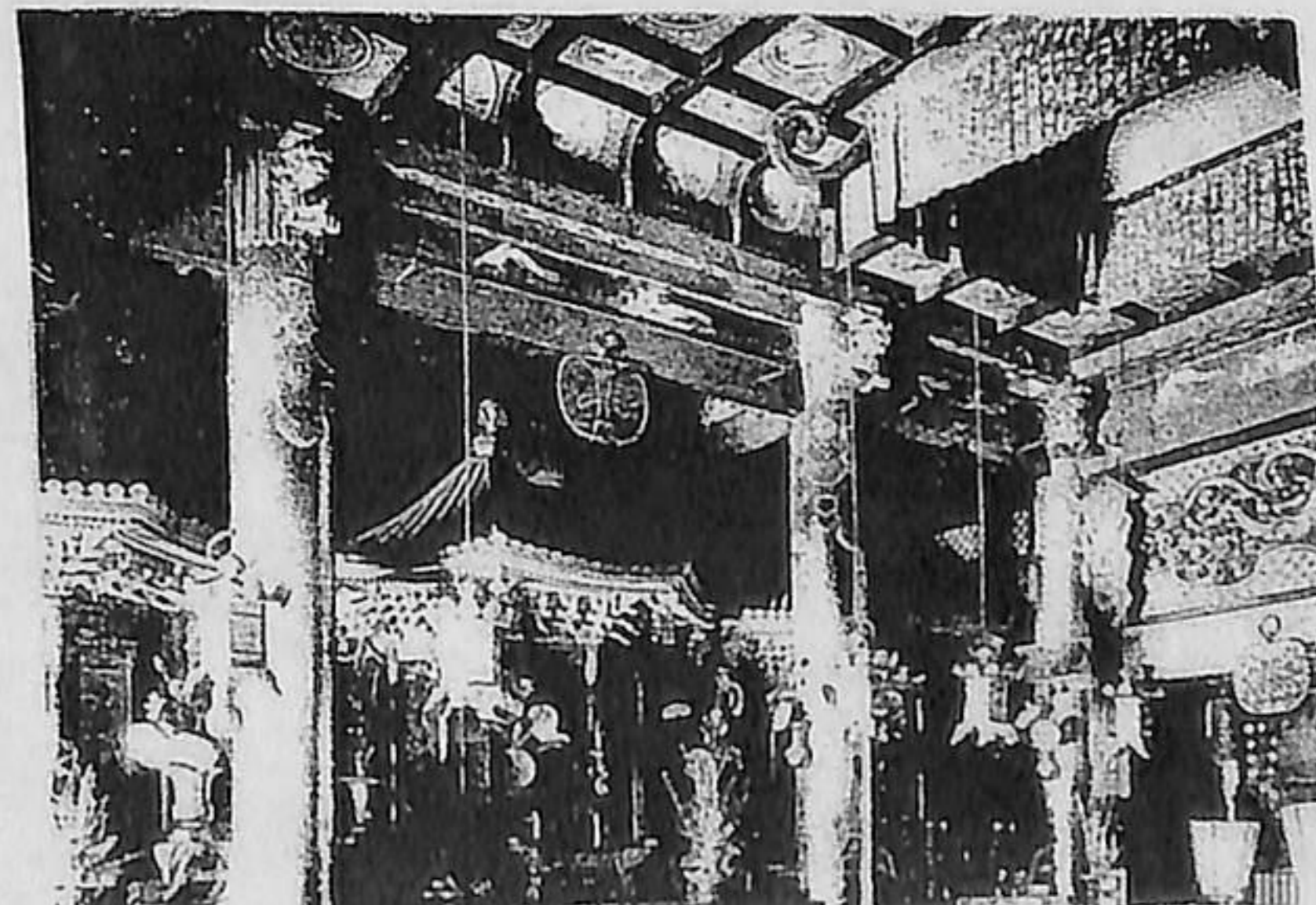
秀忠勅額門(狭山)



唐金とうろう(狭山)



↑お江霊牌所と内評(焼失)



秀忠宝塔(焼失)